NIE実践報告

1．タイトル：☆昔の暮らしの様子をさぐろう

2．学校名

新潟大学教育学部附属新潟小学校(新潟県)

3．実践者名（代表者名）

坂井　純

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　38人

6．単元（本時の学習課題）名

われら昔の暮らし調査隊!(現代の若者にちゃぶ台が人気になっている理由をさぐろう)

7．目標(狙い)

簡単に食事が摂れる時代に、どうして若い人たちにちゃぶ台が人気なのかについてその理由を考えることを通して、現代の人々も、ちゃぶ台を使っていた当時の人々と同じように食事中に家族での団らんを大事にしようと

8．評価の視点

学習感想ワークシートへの記述で、既習で身につけた知識や技能を用いて、見方や考え方を広げることができたかを、記述から検証する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「昔の道具と人々の暮らし」[社会科:8時間]

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

指導計画(全8時間)
第一次　3時間
〇七輪の提示から、使い方を知る。
〇身の回りにある昔の道具を探し、昔の道具を「おじいさん・おばあさんが子どものころの時代」、「お父さん・お母さんが子どものころの時代」、「今の時代」の三つの時代に分ける。
第二次　2時間
〇箱膳の提示により、使い方と当時の暮らしを考える。
〇箱膳が使われなくなり、代わりにちゃぶ台が使われるようになった事実から、その理由を考える。
第三次　3時間
〇ダイニングテーブルが使われるようになった現在に、ちゃぶ台が再び人気であることの事実提示から、ちゃぶ台を求める人々の願いを考える。(本時1/3時間)
〇学習したことを新聞形式で表し、昔の道具とその道具を使っていたころの人々の暮らしとのかかわりについ

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「簡単に食事ができる時代に、なぜちゃぶ台が人気なのでしょう」という疑問を持った子どもに、「これまで箱善からちゃぶ台に代わったのはどうしてだったかな」と問うた。すると、子どもは、既習を想起し、「家族の団らんが大事だと思ったからちゃぶ台に代わったんだ」、「だとすると、今の食事は簡単に取れて便利だけど、家族の団

12．成果と課題

新聞記事を活用することで、子どもはこれまでの見方や考え方を変容させることができることが子どもの姿からも明らかになった。また、日常的に新聞記事を読むことによって、自主的にこれまでの見方や考え方を変容させていけることも分かってきた。このように、授業の中で新聞を活用し、子どもの見方や考え方を変容させる経験をさせ、日常的に新聞記事を読む活動が、今後も必要である。